

本日、ここに、鹿島市議会令和7年9月定例会を招集し、諸案件についてご審議をお願いするものですが、議案の提案に先立ちまして、鹿島市を取り巻く最近の情勢や今後の主要な施策について申し上げます。

【市民の声をまちづくりに活かす取組について】

はじめに、市民の声をまちづくりに活かす取組について申し上げます。

私は、市政を取り巻く社会情勢や市民の皆様の考えなどを的確にとらえ、今後のまちづくりにどのように活かしていくべきかを常々意識して市政運営にあたってきました。特に市民の皆様の声には、様々な機会をとらえ耳を傾け、これからのまちづくりを考えています。

6月末には、昨年に引き続き「市長と語る会」を開催し、市民と直接意見交換することができました。今回は土日に開催したこともあり、働く世代や女性の参加者が多く、子育て世代の悩みや子育て環境の充実などの声が数多く寄せられました。

その中に、猛暑の中、子どもたちが安心して気軽に集える場所が欲しいという声がありましたので、皆様が涼める場所「涼み処」として、これまでの図書館や市民交流プラザかたらいに加え、各地区公民館や市民文化ホール SAKURASなどを開放し、あわせて給水スポットも新たに設置しました。今後もできることから順次取り組んでいきたいと思います。

来年度からスタートする第八次鹿島市総合計画についても、市民アンケートや審議会、パブリックコメントなどを通じて、様々なご意見・ご提言をいただきながら策定したいと考えています。今後も、市民の皆様の声に耳を傾けながら、よりよいまちづくりのため検討を重ね取り組んでいきます。

【プレミアム付商品券について】

次に、プレミアム付商品券について申し上げます。

物価高騰による家計への影響は依然として続いています。また、市内事業者の皆様にとっても、原材料価格や光熱費の高騰が経営に影響を及ぼしています。こうした状況を少しでも和らげ、市民生活や地域経済を支えるため、プレミアム付商品券を発行しており、9月1日から販売が始まっています。

本市では、これまでも様々な形での商品券事業を数年にわたり実施してきました。今回は、これまでの紙商品券に加え、新たに電子商品券「かしまん P a y」を導入しました。

「かしまん P a y」は、1円単位で利用可能であることに加え、申込みから購入、使用に至るまで、全てスマートフォン一つで完結できる点が大きな特徴です。また、アプリ上で残高や利用履歴を確認できるため、家計管理にも役立ちます。

商品券は、1セット5,000円分を4,000円で販売しており、25%のプレミアムが付いています。内訳は、全ての取扱店で利用可能な共通券が2,000円分、小規模店舗のみで利用できる商品券が3,000円分です。共通券と小規模店舗専用券を組み合わせることで、市内全体での消費を喚起しつつ、小規模事業者の支援も行っていきます。物価高騰が続く厳しい状況の中、市民生活を少しでも支え、地域経済に活力を取り戻すため、この事業を進めていきます。

【肥前鹿島駅周辺整備とJR長崎本線に関する取組について】

次に、肥前鹿島駅周辺整備の工事の進捗について申し上げます。

いよいよ新駅舎の造成工事が9月下旬から始まります。造成工事にあたり、

新設の駐輪場が完成するまでの期間は、旧祐徳ビル跡地の仮設駐輪場をご利用いただくことになります。また、市営駅前駐車場については、出入口が南側に変更となります。工事期間中は駐車台数が減少することで利用者の皆様にはご不便をおかけすることになりますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

また、社会実験として駅前の旧祐徳ビル跡地の一部に、仮設広場「ひろばのたね」を開設しました。８月２２日の納涼花火大会では、観覧会場として多くの方にご利用いただきました。今後も令和１１年度の整備完了に向け、駅前エリアの活用と地元の気運を盛り上げていきますので、「ひろばのたね」の積極的な活用をよろしくお願いします。

西九州新幹線開業に伴い上下分離方式となったＪＲ長崎本線は、本年９月で丸３年を迎えます。これまで、通勤通学など市民の生活の足を守るため、また、本市を訪れる観光客の皆様にとっても快適な旅となるよう、長崎本線の利用促進に取り組んできました。本年は「かささぎでＧｏ！キャンペーン第４弾」として、通常価格から割り引いた往復乗車券及び自由席特急券にクーポンを付けた「デジタルきっぷ」を８月１日から販売しています。多くの方にこのお得な切符をご利用いただき、長崎本線の風景や食などの魅力を感じていただきたいと思います。

なお、９月２３日には、子どもたちなどに列車やＥＶバスの乗車体験など公共交通にふれ合っていただく「駅からＧｏ！かしま公共交通体験フェスタ」を開催します。本年で３回目となるこのイベントは、移動動物園や子どもたちが楽しめるアトラクション、キッチンカーの出店のほか、「手話の日」にあわせた普及啓発活動として「手話ステーション」ブースを設置しますので、ぜひご来場ください。

また、本市を含む佐賀県全体の産業の発展や地域振興に必要な鉄道ネットワークについて、８月２１日にＪＲ九州に出向き、佐賀県と県内２０市町の合同による要望活動を行いました。私からも、通勤通学に欠かせない長崎本線について、引き続き利便性を確保していただくよう要望したところです。各市町の抱える課題は様々ですが、利便性向上につながるよう、引き続き、相互に連携しながら取り組んでいきます。

【有明海沿岸道路の事業進捗について】

次に、有明海沿岸道路の事業進捗について申し上げます。

現在、国土交通省と佐賀県で事業が進められている有明海沿岸道路は、諸富インターチェンジから（仮称）川副インターチェンジまでの延長約１．１キロメートル区間で計画されており、令和８年度中の開通見通しが公表されました。また、８月６日に佐賀県が白石町で開催した地元説明会では、むつごろうカントリークラブ付近から廻里江川東側までの約２．５キロメートル区間について、ルートなどの道路計画案が新たに説明されました。

そのほか、日本風景街道「ありあけ海道～トレジャーロード～」の登録を契機として、８月２日には民間団体「ありあけ海道盛り上げ隊」がキックオフイベントを開催しました。このイベントでは、各地域の活動紹介が行われたほか、有明海沿岸地域を盛り上げるための「ありあけ海道盛り上げ宣言」が読み上げられ、より一層の連帯が強まったところです。

今後も、様々な関係者や各地域住民と連携し、有明海沿岸道路など、本市を支える社会資本の早期整備のため、必要性や地元の熱意を国や県に強く訴えていきます。

【高校生との連携について】

次に、高校生との連携について申し上げます。

鹿島高校生と近隣の高校に通う学生をメンバーとした「鹿島市高校生広告課（かしまクリエイティ部）」を立ち上げ、若者目線で鹿島市の魅力を市内外に発信する事業に、市と高校生とが連携して取り組みます。この取組は、参加する高校生がプロのクリエイターやカメラマンから情報発信のコツを学び、鹿島市ならではの魅力を高校生自らが取材し発信する、実践型の広告活動です。この活動で出てきた高校生のアイデアは、今後、本市のロゴとキャッチコピー制作にも活かしていきたいと考えています。

また、8月4日から6日までの3日間、市民交流プラザかたらいにおいて開催された「鹿島高校生による誰一人取り残さないスマホ相談会」では、高齢者など103人がスマートフォンの基本操作や市の公式LINE「てのひら市役所」の便利な利用方法などを相談に訪れました。参加者からは、「丁寧でわかりやすく本当に助かった」との声が聞かれ、高校生も「やりがいがあった、楽しかった」と好評でした。今後も継続的に開催できればと計画していますので、ご希望の方はぜひ次回参加いただければと思います。

【環境保全の取組について】

次に、環境保全の取組について申し上げます。

平成27年5月に北鹿島地区の新籠海岸地先がラムサール条約湿地「肥前鹿島干潟」として登録されて、今年で10周年となります。ラムサール条約は、湿地とともに人と自然との共生を目指す条約で、湿地の生態系と自然環境を守りながら、湿地を賢く利用することを目的としています。10年の節目の取り組みとして、10月24日にシンポジウムを開催し、「肥前鹿島干

潟」の魅力と素晴らしさを伝えていきます。

そのほかにも、同時期に登録された佐賀市や荒尾市と共同で、スタンプラリー事業などを連携して取り組み、有明海沿岸のラムサール条約湿地登録地の広報や交流人口の増加に取り組みます。

以上、９月定例会の開会にあたり、鹿島市を取り巻く最近の情勢や今後の主要な施策について申し上げました。今後とも市民の皆様並びに議員の皆様のさらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。

【議案について】

それでは、提案する案件について、その概要を説明します。議案は、報告２件、決算認定６件、新規条例制定１件、改正条例制定３件、補正予算２件の合計１４件です。このうちの主な議案について申し上げます。

【令和６年度決算認定について】

はじめに、議案第５３号 から 議案第５８号 については、令和６年度の一般会計、特別会計及び公営企業会計に関する歳入歳出決算となります。

このうち、議案第５３号 令和６年度鹿島市一般会計歳入歳出決算認定について申し上げます。なお、決算については円単位ではありますが、便宜上、千円単位で申し上げます。

令和６年度の歳入については、総額１７２億８，１５１万４千円となり、市債などの減により、対前年度比２．０％の減となりました。

一方、歳出については、総額１７０億４９３万５千円となり、投資的経費などの減により、対前年度比１．７％の減となりました。

その結果、翌年度に繰り越すべき財源を差し引き、２億４，４７３万５千円の黒字決算となりました。

基金については、市の積立金である財政調整基金から１億９，１６２万５千円の繰り入れを行いました。１２月の普通交付税の追加交付などにより、約１億９，３００万円の積み立てを行いました。その結果、財政調整基金の年度末残高は約１４２万円増え、今後の財政運営に備えることとしています。

また、市債残高は、令和６年度末では約１３３億円ですが、償還費のうち、普通交付税で全額措置されます臨時財政対策債を除けば、約９５億８，０００万円となります。

この償還費にも普通交付税により措置されるものがありますので、実質的に返済する金額は約５５億６，０００万円となっています。

本市の行財政運営の主要な部分を占める一般会計においては、今後も財政指標に留意しながら、健全な運営を行っていくことが重要であると認識しています。

以上、令和６年度決算認定についての説明を終わります。今後とも、効率的かつ効果的な行政運営、安定的かつ健全な財政運営の具現化を図る「行財政運営プラン」の着実な取組などにより、「第七次鹿島市総合計画」に掲げる主要施策の実現に向け、将来にわたり「持続可能な行財政運営」の構築に努めていきます。

【令和７年度補正予算案について】

次に、議案第６３号 令和７年度鹿島市一般会計補正予算（第２号）について申し上げます。

今回の補正は、予算の総額に３億８６８万円を追加し、補正後の総額を１

70億4,673万7千円とするものです。

歳入については、事業の決定、既存事業の追加や減少などに伴う、国・県支出金、市債などの増減を計上するとともに、令和6年度決算剰余金としての繰越金などを計上しています。

歳出のうち主なものとしては、総務費では、令和6年度決算剰余金の確定に伴い、地方財政法第7条の規定により決算剰余金のうち2分の1相当額を財政調整基金への積立金として計上しています。民生費では、低所得者支援及び定額減税補足給付金給付事業を、衛生費では、新型コロナウイルスワクチン定期接種事業を、消防費では、消防施設整備事業を、教育費では、学校給食費保護者等負担軽減事業を計上しています。

このほか、個人や企業様からご寄附をいただいていますので、それぞれのご寄附の趣旨に従い、有効に活用させていただきます。

【条例の制定について】

最後に、

議案第59号

 鹿島市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について申し上げます。

これは、生後6か月から満3歳未満で保育所等に通っていない子どもを育てている家庭が、月10時間まで利用できる「こども誰でも通園制度」が国において創設されたことに伴い、実施するための基準を定めるものです。

以上、提案する主な議案の概要について説明しました。詳細については、ご審議の際、担当部長又は課長が説明しますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。